



【学校の重点目標】 伸びを実感する生徒の育成～ 課題設定能力の向上 ～



達成目標	達成状況	評価 (1～4)	改善策
<p>学力向上</p> <p>■基礎的・基本的な学力および、思考力・判断力・表現力等の育成、学びに向かう人間性等を養う。</p> <p>■時代の変化に対応するための諸課題に対応する力を育成する。</p>	<p>・数学、国語を重点として、基礎・基本の徹底、「書く力」の育成に取り組み、3年生を中心に、全国調査を上回る、あるいは同水準までの結果を得た。一方で、学年が進むにつれ向上する傾向があるものの、基礎学力に課題を残す学年があった。家庭学習時間について、量・質ともに各学年での課題を残している。</p> <p>【学力調査（標準化得点）】3年全国：国（96）数（105）、2年県：国（96）数（89）、1年県：国（94）数（95）</p> <p>【状況調査結果】家庭学習1時間未満40.3%（全国33.9%）</p>	<p>3</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研推部を中心とした主題研究としての全教科共通の取組（振り返り活動、小集団活動）など授業改善の充実 ・ICT機器を活用した授業づくり ・階層別の課題領域に焦点化した繰り返し学習 ・家庭学習指導（各学年の状況に応じた自学ノートの取組）
<p>豊かな心の育成</p> <p>■人間としての基本的な倫理観や規範意識を育成する。</p> <p>■すべての人の人権が尊重される社会の実現を目指して、人権・同和教育の推進を図る。</p>	<p>・「夢講演会（町内の協力者を講師に迎えた教育講演）」や「乳幼児体験活動」「進路学習企業交流活動」などを通して、自身の生き方を見つめ、心豊かに生きることの意義をとらえる学習ができた。</p> <p>・「夢や目標をもつ」割合33%（全国40%）人の役に立つ人間になりたい71%（全国72%）「地域や社会をよくするために何かしてみたい」19%（全国19%）→活動にあたってよく考えている（実践化に課題）</p>	<p>3</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各専門委員会や執行部を中心に生徒会活動の充実を図る。 ・身近な生活や行事を題材に、具体的な場面設定をとおして、自他との関係性を考える授業を実施する。→実践化の充実 ・学級活動、朝・帰りの会の振り返りの場면을充実させる。
<p>体力向上</p> <p>■健康保持と体力向上を目指し、運動を楽しむことができる。</p> <p>■食事についての正しい知識や、望ましい食習慣を子供たちが身につけられるよう、家庭や地域と連携して食育を推進する。</p>	<p>・コロナ禍の影響が徐々に少なくなり、体育の授業や行事、部活動などに積極的に取り組むことで、運動に慣れ親しめる状況・時間が増加した。</p> <p>・新体力テストの結果、男子44(+2.3) 女子48(+0.3)と男女ともに全国平均を上回った。体力アップシートは全学年活用できた。</p> <p>・全国学力・学習状況調査において「朝食摂取」を「している」「どちらかといえばしている」の回答が92.2%（全国91%）</p>	<p>4</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・補強運動や保持運動の継続的な実施に加え、男女の共通課題である体力要素「柔軟性」を高める運動を意図的に仕組んでいく。 ・PTAと連携した基本的な生活習慣確立のための活動（早寝早起き朝ご飯）を充実させる。
<p>いじめ登校校の対応</p> <p>■不登校・不登校傾向生徒の対応のための組織的取組</p> <p>■いじめ、不登校等の児童の課題に対し、家庭や地域と共に問題の早期発見・早期解決を図る。</p>	<p>・いじめ問題への早期対応のため、月1回の生活アンケート、教育相談の実施、福岡アクション3の確実な実践、家庭との密な連携（電話連絡、家庭訪問、メール配信、通信等、SC、SSW、精神対話士）を行った。</p> <p>・3ヶ月のいじめ見守り継続件数（3）→解消</p> <p>・不登校生徒数：24名 前年度比+3名 学校復帰の数も増え、自主学习室の活用により、復帰率が上昇。今後も自主学习室の活用、充実を継続する。</p> <p>・関係機関との連携により組織的に取り組めた。（子育て支援係、医療機関など）</p>	<p>3</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「マンツーマン」による支援体制の見直しと、改善を図る。 ・早期発見、早期対応に向けた職員体制の点検・見直しを行う。（報告・連絡・相談） ・自主学习室の運営の仕方について全職員の共通理解を図り、教室復帰に向けての機能の整備を図る。要配慮生徒の情報の共有
<p>家庭地域との連携</p> <p>■学校運営委員会、地域学校協働本部が連携・協働して、「地域とともにある学校づくり」を推進する。</p> <p>■地域社会と連携・協働しながら「社会に開かれた教育」を実現する。</p>	<p>・「放課後学び道場」への参加をはじめ、「夢講演会」「職業交流会」など、地域人材等を活用した取組ができた。（コロナ禍以前の状況に復活の傾向）</p> <p>・教育週間の学校公開期間に参観した地域住民が340名</p> <p>・朝の挨拶運動は、PTA役員さんたちから生活委員、そして学級毎の保護者（希望制）へと広がった。挨拶をする生徒（保護者への調査）は90.3%</p> <p>・HPは定期的に更新し、安心メールでの情報発信は随時行った。</p>	<p>4</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育週間期間に合わせた行事や説明会等の取組を検討し、積極的な情報発信に努める。 ・家庭や地域の教育課題を踏まえて、教育講演会やPTA活動などを設定する。 ・地域や保護者とともに、生徒会を中心に、「5S+1（あいさつ）」運動の継続と充実を図る。